
黒猫は笑う

桃内土朗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

黒猫は笑う

【Nコード】

N4867C

【作者名】

桃内士朗

【あらすじ】

闇の中、黒猫は笑う。ただただ笑う。そんな奇妙で少しおかしいお話。

（前書き）

思いつき小説です。

面白いと思った方はどうか評価をください。

面白いとは思わなかった方は忘れてください。

「くっくっくっ」

黒猫が一匹笑っている。何かを見て笑っている。

心から楽しそうに、そして、それと同じぐらい悲しそうに……

黒猫の目線の先には何かがあった。

黒猫はそれを見て笑っていた。

それがなんなのか分からない。

いや、分かるのだが理解したくない。

だからアレが何なのか分からない。

そしてその何かを黒猫は食べる。

ぐちゃぐちゃ、ばりばり、ぐちょぐちょ。

音を立てながら食べる。

ぐちゃぐちゃ、ばりばり、ぐちょぐちょ。

「くつくつくつ」

そしてまた、黒猫は笑う。

口の周りを赤黒く染めながら。

高らかにではなく、静かに、そしてどこか狂ったように笑う。

黒猫が食べているのは、それは何だろう。

目を凝らしてみても何かは分からない。

いや、何かなど初めからわかっている。

分かっているが自分の目はフェルターをかけて見えないようにしている。

でも気になる。

何かを頑張ってみようとする。

その間も黒猫は、食べながら笑う。

そして、最後に残ったのは18cm位の丸いと言いがたい玉。

俺は最後のチャンスだと思いながら、それに目を凝らす。

黒猫はその玉を舐める。

黒猫は俺のそれを見せ付けるようにただただ舐める。

「くっ、くっ」

そして黒猫はたまに思い出したかのように笑う。

そして、黒猫が笑った瞬間に、さっきまで見えなかったフィルターがなくなった。

そして見えた何かは、俺の生首だった。

うつろな瞳でこちらを見てる。

口は開き血が出てる。

そして、首から下はない。

体があったと思われるところには、ただただ血だまりあるだけ。

そして、その光景が目に見えたとき、黒猫は口だけ開きこう言った。

ど・う・だ・？・お・ま・え・の・さ・い・ご・の・す・が・た・
は。

そこで、俺は目覚めた。

夢のはずなのに、しっかりと目に焼きつき、目を瞑ればまた見えてきそうなどリアルな俺の生首。

そして声は聞いてないはずなのに、耳に残る最後の言葉。

あの血だまりの中、笑っていた黒猫。

怖いと思いながらも魅入られた。

（後書き）

最後の終わり方は無理がありますね。

俺も思います。

ですが長編の方がネタに詰まって考えられないので見逃してくださいな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4867c/>

黒猫は笑う

2010年12月31日02時44分発行